

経営組織における情報管理とマネジメント・モデル

教授 山下洋史

1. 研究内容

現代社会を「情報化社会」と呼ぶようになって久しいが、現在でも情報の社会的価値はとどまることなく増大し続けている。なぜなら、情報は我々の合理的な行動の基盤となる存在であり、そのために我々は ICT（情報通信技術）を活用しながら、より多くの有用な情報を獲得しようとしているからである。

本ゼミでは、経営組織における情報管理の問題を、主として人間と組織の行動との関連の視点から捉え、情報と知識の価値について研究する。その際、社会科学と自然科学の学際的なアプローチをとるところが特徴である。本ゼミで論じる主なテーマは、下記の通りである。

- ① 企業活動の低エネルギー化・高エンタロピー化と、情報管理の集権性・分権性の関係
- ② リエンジニアリング（BPR）とサプライチェーン・マネジメント（SCM）における情報・知識共有
- ③ 組織活性化・情報活性化とスマート・シンクロナイゼーション
- ④ 循環型 SCM・3R 活動と資源循環の領域推移確率モデル
- ⑤ 情報の非対称性における情報の内容的価値・占有的価値と情報引力・情報遮断エネルギー
- ⑥ 地域活性化・地方活性化と SDGs
- ⑦ 浅草・下町の活性化と東京スカイツリー

2. ゼミの進め方

《2年次》

春学期：社会の動向に関するディスカッションを行うとともに、指導教員の論文（情報の価値・情報引力や情報活性化などに関する論文）を輪読し、研究の基礎を固める。

秋学期：社会の動向に関するディスカッションを行うとともに、上記①から⑦に関する論文を輪読し、幅広いテーマの研究に触れる。

《3年次》

春学期：社会の動向に関するディスカッションを行うとともに、上記①から⑦に関する論文を輪読し、幅広いテーマの研究を理解する。

秋学期：社会の動向に関するディスカッションを行うとともに、関連学会のジャーナルを輪読し、研究を展開するための基礎を養う。

《4年次》

春学期：上記①から⑦に関する論文集を参考に、学生自身の卒業論文テーマを絞り込む。

秋学期：卒業論文の指導を受け、論文を完成させる。

3. 教材

参考文献 1. 山下「情報・知識共有を基礎としたマネジメント・モデル」
東京経済情報出版（2005）

参考文献 2. 山下・村田編著「スマート・シンクロナイゼーション」同文館（2006）

参考文献 3. 山下・諸上・村田編著「グローバル SCM」有斐閣（2003）

4. 成績評価の方法

ゼミの議論・研究活動への積極性・貢献度、および課題の完成度により総合的に評価する。

5. ゼミ入室試験（選考方法）

選考方法につきましては、Oh-o!Meiji にて、後日連絡します。

6. その他・志願者へのメッセージなど

本ゼミでは、毎回出席して発言や質問をする学生の積極性を期待する。また、希望者は大学院生とともに学会発表や合宿を行う。なお、日本語会話の可能な交換留学生を受け入れることもある。